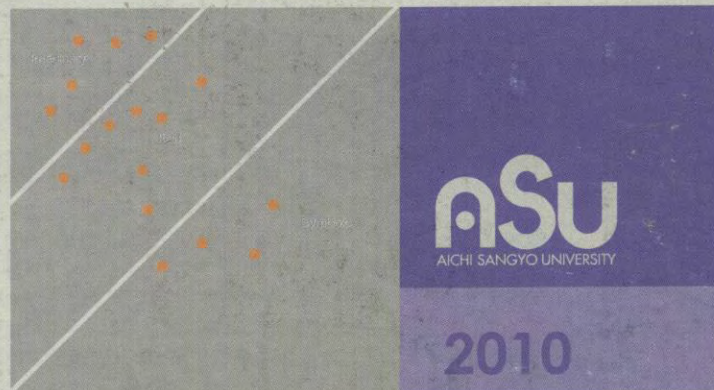


卒業研究作品選集

愛知産業大学 通信教育部 造形学部
建築学科



建築学科の方針 —— 学術、技術、芸術を集結した建築の総合教育

本学科は、工学系、美術系の枠にとらわれず総合的な造形としての建築を学んでいただき、21世紀にふさわしい建築の設計者や建築の知識を持って社会に貢献できるキーパーソンを育成することを図っています。

常に空間を意識した建築造形的能力、社会の課題や要請に的確に答える資質を養うために、工学、美術、芸術、社会科学や一般教養などでバランスよく構成された豊かなカリキュラムを用意しています。建築造形、建築設計、CAD、構造構法、力学の演習科目を中心に建築の各専門分野から幅広く学べます。さらに大学教育の集大成として卒業研究に取り組みます。

通信教育は情報化社会、生涯学習の時代に適した教育システムです。社会人が効果的に通信教育で建築について学べるよう、通信科目やスクーリングの内容、学習方法については工夫を凝らし常に改善を加えています。

愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科は、豊かな文化性と社会性を兼ね備え、総合的な視野で建築をとらえてこれからの社会を考えられる力を身につける教育の場を提供します。



松本 篤 教授

建築学科の特色 —— 実践的な教育

美しく、人に喜ばれる建築、街並みを作りたい。



建物に住む人、その街に暮らす人、そして訪れる人が喜びを感じられる、そんな建築ができれば社会的意義は大きいと思いませんか。ファッションが機能性、美的センスを重要視するとおり、建築や街並みも環境に調和した機能や美しさ(デザイン)が求められます。単に雨、風がしのげるだけ

ではいけません。自己満足でも困ります。21世紀の日本は、美しい未来を予感させ、何かワクワクするような建築や街並みが求められています。皆さんも、その一翼を担う建築家や設計のプロフェッショナルを目指してみませんか。

社会で活躍できる人材の養成



忙しい時間を割いて学ぶ皆さんにとって、その貴重な学習時間が、今後の仕事や日常生活に結びつけられれば言うことがありません。通信教育部建築学科はまさにそこにねらいをおき、社会

人を対象とした受講しやすい教育システムを構築しています。

教育内容は短期間(3日間)のスクーリングや通信科目でできるだけ多くの建築知識・技術が得られるよう、課題作品やレポート課題に工夫をこらしています。スクーリングでは、より高いレベルの集中講義、演習を行うため、現役で活躍する建築家や各建築専門分野の教員が授業を行います。さらに造形学部の特徴を活かし、工学や芸術の枠にとられない、創造的な視点で建築を考えられる人材の育成を目指しています。

建築士の資格を視野に入れて



建築業界で働こうとする人が建築士の資格を必要とするのは言うまでもありません。ある先生の話ですが、「力士がまわしをつけるのと一緒で、建築業界で頑張るのだったら、まずはまわし(建築士資格)をつける必要がありますね。」とおっしゃっていました。建築士の資格取得は、本学科の目標の一つです

が、無理なく取得できるよう配慮しています。卒業後には、二級建築士の受験資格が得られます。また実務経験2年を経て一級にもチャレンジ可能です。受験対策では、無料の学習相談会やWEB質問掲示板でサポートしています。さらに学科、校友会(卒業生の会)では資格学校(日建学院)と提携し、学科講座をバックアップしています。

スクーリング会場(東京・名古屋)やネット学習環境の整備にも力を



通信教育で学ばれる方は、在住地を問わず、各地から学びに来られます。場所を問わないことは通信教育の魅力の一つですが、本学ではスクーリング受講(面接授業)の利便性を考え、各会場の運営に力を入れています。現在、スクーリング会場を東京・名古屋におき、遠方の学生がより受講しやすい態勢をとっています。また大

阪においても提携の専門学校の協力を得て、多くのスクーリングを開催しています。東京スクーリング会場では建築学科で卒業に必要なスクーリング全てを開講しています。また愛知県では、本学(岡崎)はもちろんのこと、名古屋の副都心、金山の名古屋スクーリング会場(金山総合駅前)で大半のスクーリングを開講しています。スクーリング会場では、さらにスクーリング以外でオープン教室(自由参加型学習会)を定期的に行い、学習サポートを行っています。

その他、インターネットを活用し、WEB掲示板やブログの情報提供で積極的に学習環境の整備を図っています。

平素より愛知産業大学には格別のご厚情を賜り、謹んで御礼申し上げます。

さてこのたび、通信教育部建築学科では、以前より開講しておりました建築デザインコースの学生と合わせ、卒業研究総数 76 点の中から選ばれた優秀な作品を「卒業研究作品選集」としてまとめました。社会人をはじめ様々なバックグラウンドを持つ通信教育部の学生らしい意欲的な作品が集まりました。本学のあります愛知県では毎年卒業研究展（名古屋展）を開催し、東京での開催（東京展）もすでに 5 回を数えました。特に名古屋展は、今年度は初めて名古屋都市センターを会場とし、公開講評会もあわせて開催することができました、それぞれの会場にはこの「選集」掲載作品を中心に展覧しております。

特に優れた卒業研究には卒業研究賞を授与しております。2009 年度に創設しました「守屋賞」は、本学科の方針を形づくった守屋弓男教授に因むもので、社会人が自ら仕事や日常で、経験をいかした眼差しをととして社会の問題を捉え、建築の造形によってそれに応えるという、本学で学ぶ本質が際立った卒業研究に授与するものです。

今後とも、優れたデザインを生み出せる卒業生の輩出を目指して一層の努力を続けてまいります。引き続きご指導ご助力を賜りますようお願い申し上げます。

愛知産業大学 造形学部

通信教育部 建築学科主任 松本 篤

2010年度 卒業研究受講生の所在地分布図



2010年度 卒業研究の分析とトレンド

※コンセプトの文章に対しキーワード重要度計算プログラムを適用し、その出力結果に固有名詞等の除去などのクレンジング処理を行った。

コンセプトの分析によるトレンド

	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	空間	人	空間	道
2 位	人	空間	施設	施設
3 位	森	建築	人	まち
4 位	地域	場所	都市	人々
5 位	時代	場	生活	周辺
6 位	光	街	地域	交流
7 位	建築	地域	日本	文化
8 位	計画	施設	場	森
9 位	人々	商店街	環境	壁
10位	地域力	人々	街	集合住宅

コメントの分析によるトレンド

	2010年度	2009年度	2008年度	2007年度
1 位	空間	空間	人々	都市
2 位	作品	都市	街	デザイン
3 位	建築	作品	建築空間	施設
4 位	都市	建築	人	建築空間
5 位	施設	場所	空間	可能性
6 位	提案	場	空間性	造形
7 位	人	造形	研究	敷地
8 位	建築空間	災害	都市	空間
9 位	川	商店街	施設	環境
10位	スケール	社会性	世界観	流れ

2010 年度 卒業研究 全リストと選出作品目次

選出作品	タイトル	氏 名	掲載頁
●	ツナグツナグ	千葉 幸代	4,5
●	KIMONO 一きもの発信拠点ー	袖山 華絵	6,7
●	三保の情景	益子 隆	8
●	御前山エコビレッジ 五感に響く故郷：原風景	阿久津 あや子	9
●	顔が見える近未来の都市型マーケット SmartCity2020	酒井 直子	10
●	みんないるよ コレクティブハウジングにより、東浦町へ人呼び込む URBAN CAVE 町工場ミュージアム	青山 佳子	11
	蟲食い建築 一荻窪駅南口の再構築を図るー	安部 政紀	
	保存 ただ水のあわにそびえ立つ	栗田 小雪	
	次世代の湾岸リゾート	石川 正次	
	私の入居したい老人ホーム 自然の中の施設		
●	癒しの堀川。動ける堀川。 ～浄化されたその後は～	伊藤 亜紀	12
●	日本橋 OMOTEKA	伊藤 香	13
	KOMAGATA SHOPPING STREET	内堀 崇	
●	ハコモノを有利用する集合住宅 「プラネタリウム」×「シェアハウス」で実現する既存施設の有効利用	江口 宗子	14
●	「知のリゾート」～滞在型図書館併設型～ ーエキスポランド跡地再開発計画ー	榎本 孝史	15
●	いっしょに帰ろう 記憶の架け橋	太田 紋	16
	繋がり～久屋公園再開発計画～	大原 浩之	
	遊び場を提供し続ける 省エネルギーな建物	緒方 正弘	
	活動する場としての行政 - Smart City 2020 -	岡田 幸枝	
	OKA Project 丘暮らしを快適にする大規模コミュニティの提案	岡邊 佐知子	
	明日につながる場		
	“社会変化が生み出す新事業（新しい老人ホームを創作する）” 老人ホームと大学の一体化 ～和製「ラッセル・ビレッジ」を考察する～	小野 昌	
	田園ステーション smart city 2020	貝塚 隆晃	
●	無駄であって、無駄ではないもの ー大船フラワーセンターを核とした教育施設の整備ー	笠島 優香	17
	メガ・ステーション魅力的な駅 ー地方都市の中心市街地活性化ー	勝山 弘隆	
	kakurega		
	うつろいの展示館 廃校敷地再生プラン		
	こども園とシニアクラブ SmartCity2020	上出 詠子	
	HERMIT CRUB からのお願い ほつどが叶える新しい「巢」		
	地域間交流の拠点となる保育園の提案	菊原 薫	
	別世界へ誘う～吸い込まれてゆく人びと～ 文化施設の建築から都市を活性化に導く	北川 真由	
	出雲ひのみさきリゾート	北野 真弓	
	地域の中核メデイカルセンター	小島 享	
●	ミンパク ～あなたに逢うための観光・宿泊施設～	小関 早苗	18
	近未来田園都市の木造建築群 自然との融和を図る街並みづくり		
	gaussian空間 美術空間としての試行	齊藤 光俊	
	新・卸町駅		
	自立した集合 一住まいは次のステージへ	佐藤 志保	
	“過去を継承し未来に繋ぐ駅舎” 京都 別府観光の発信地～	佐藤 洋二郎	
	出逢いの街 ～集合住宅における経路空間の可能性～	佐野 祐佳	
	目と眼の豊かな対話を生み出す集合住宅	下川 哲也	
	風景にたえずむー見方の再発見		
	水・風・土 ～川を通じて暮らしを再編成する～	鈴木 仁司	
	街と人を繋ぐフードコート smart city2020	鈴木 真澄	
	人生を楽しむ住宅 情動を開放させる	勢力 清弘	
●	光の美術館	高田 久美子	19
	商店街の複層化による再生案 一高齢者を孤立させない3世代同居の伝統職人たちの集合住宅のある緑豊かな町ー	高田 勲	
	東京集落 連鎖する街並み		
	職人文化の再生計画、棟梁の家！ 職人という専門家とのつながりの町	田中 喜三男	
	あんこう館	土屋 寿子	
	SMARTCITY2020 近未来の集合住宅+カフェ+ギャラリー	富田 和広	
	Sakimitama Biotope Station + City Identity	中島 郁乃	
	今日は歩いて行こう 都市の屋上に快適な歩行空間を創造する	永島 孝	
	KIZUNA 一絆のある場所ー	中村 晃輝	
	Floating Museum 「海」を眺める美術館	中山 久美	
	海と港へのオマージュから未来へ ～世界の healing 空間を創出～	成田 恭美	
	PORUS20 ーユニットハウスによる仮設住宅ー	西谷 隆輝	
	成長、変化する集合住宅 気楽に隣人の世話がでる集合住宅	日名子 修三	
	地域の子供の自然観察施設「横浜・二ツ池ネイチャーセンター」		
	新・新幹線駅		
	デジタル時代のアナログ図書館		
	私たちの家 児童養護施設と木造住宅のリノベーション	増木 由美子	
	Baumkuchen 高齢者と児童の交流施設	松井 友香	
	Inclusion を理念としたこどものあそび場	松田 直樹	
	大地に纏う	松月 昭人	
●	公園のつづき	毛利 加奈子	20
	中山道宿場町に残る町家家相図の実例分析 一家相図の建築学的研究ー	森崎 麻充	
●	原点回帰の杜	矢谷 和基	21
	遊びの間を積み重ねる 一外遊びの時間・空間・仲間の復活ー	山路 智子	
	もりで感じる いざなう空間	山下 妹夕	
	水紋 高齢者と地域をつなぐ	山田 志保	
	イキガイあるビジネス街	山田 仁美	
	地域住民が集う空間 世代を超えた人々のつながり	横田 圭太	
●	DOT FLOW SENGEN SHRINE 森の形～密度による空間定義	渡辺 聡	22
	児童施設	渡邊 大祐	

総数 76点

※氏名空欄は本人希望により非掲載

ツナグツナグ

第 52 回全国大学・高専卒業設計展示会 出展

model



work panel



CONCEPT
新宿区は中心にある余丁・富久町、山手線内にありながらも下町のように濃密なコミュニティが形成されていた。しかし現在はバブル期の地上げや計画道路により、町が虫食いになり分断されてしまった。さらに、この地域には新たな道路が計画中であるが本当に必要なのだろうか。日本の人口は減少傾向であり、都心に住む住民の自動車保有率は低い。

SITE
この地域は山手線沿いの「余丁」と「富久町」の2つの地域で構成されている。余丁は山手線沿いの古い住宅地であり、富久町は山手線沿いの新しい住宅地である。この地域は山手線沿いの古い住宅地と新しい住宅地とが混在している。この地域は山手線沿いの古い住宅地と新しい住宅地とが混在している。



この地域は山手線沿いの古い住宅地と新しい住宅地とが混在している。この地域は山手線沿いの古い住宅地と新しい住宅地とが混在している。



concept

新宿区余丁・富久町は、山手線内にありながらも下町のように濃密なコミュニティが形成されていた。しかし現在はバブル期の地上げや計画道路により、町が虫食いになり分断されてしまった。さらに、この地域には新たな道路が計画中であるが本当に必要なのだろうか。日本の人口は減少傾向であり、都心に住む住民の自動車保有率は低い。

また時代を経て外国人などの移住者が増え、住民の構成にも変化が現れている。住まう人々は多種多様なが、互いにコミュニケーションを取ることが少ない。これらの問題を解決するため古き良き時代の名残を受け継ぎつつ、新しいウオリティのコミュニティを提案する。

comment

急激な都市開発が招いた空洞化、国内外からの新住民流入、遅々として進まない都市計画、失われてゆく古き良き風情。しかし、こうした状況をネガティブに捉えるのではなく、むしろ新たなコミュニティを作り出す機会と積極的に評価し、計画道路が生み出した都市の空白に建築をすることで、分断された街をつなぎ、バラバラになりかけた人をつなぎ、過去と現在と未来をつなごうという意欲的な提案である。街のスケールに合わせて計画された広場と建築の連続体が、集まる人々に多様な行動を喚起しつつ交流を生み出していく。街への強い想いが空間に満ちわっている。

(担当教員：久原 裕)

Sachiyo Chiba

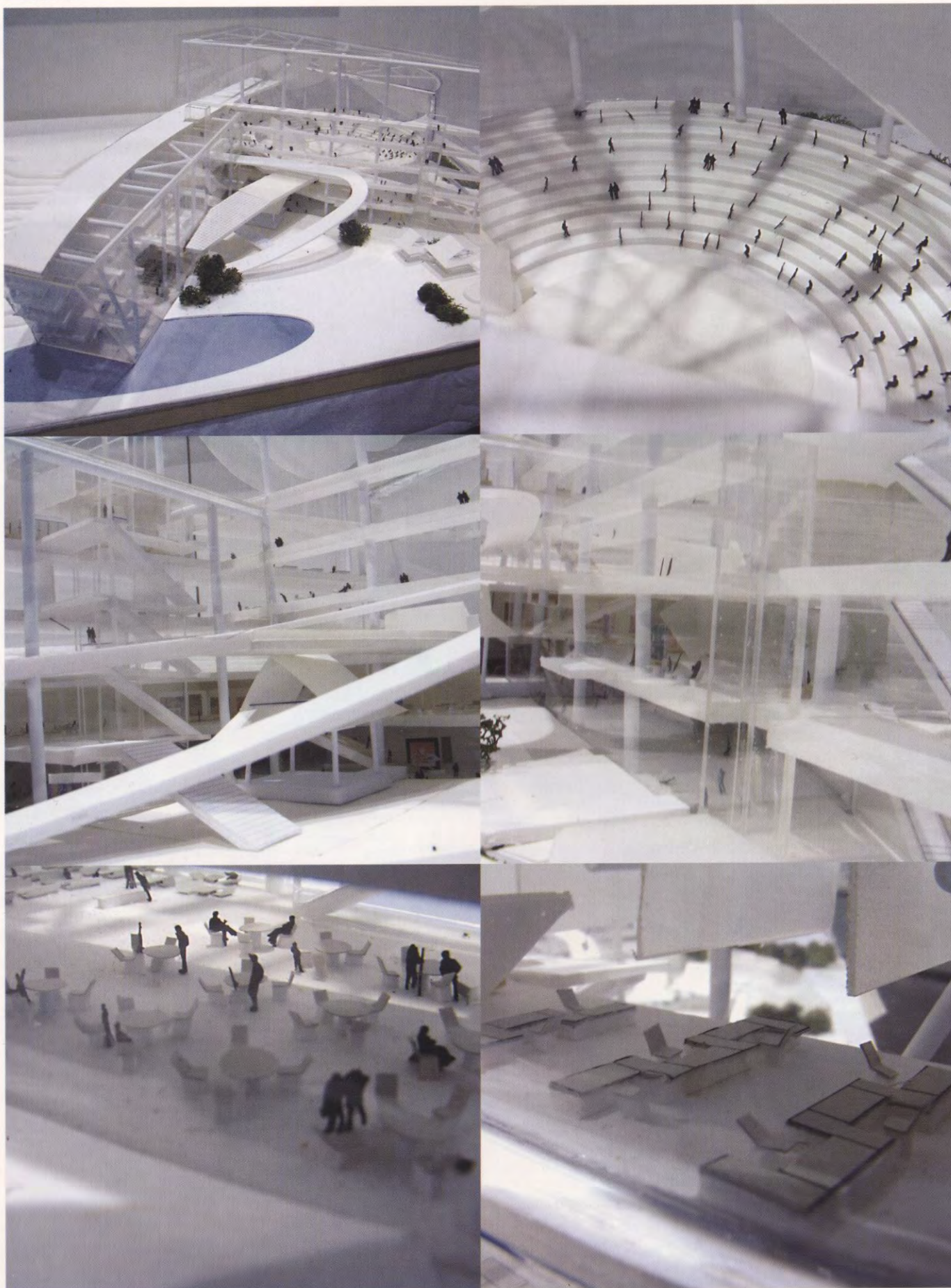
千葉 幸代

東京都在住
建設会社事務
30代

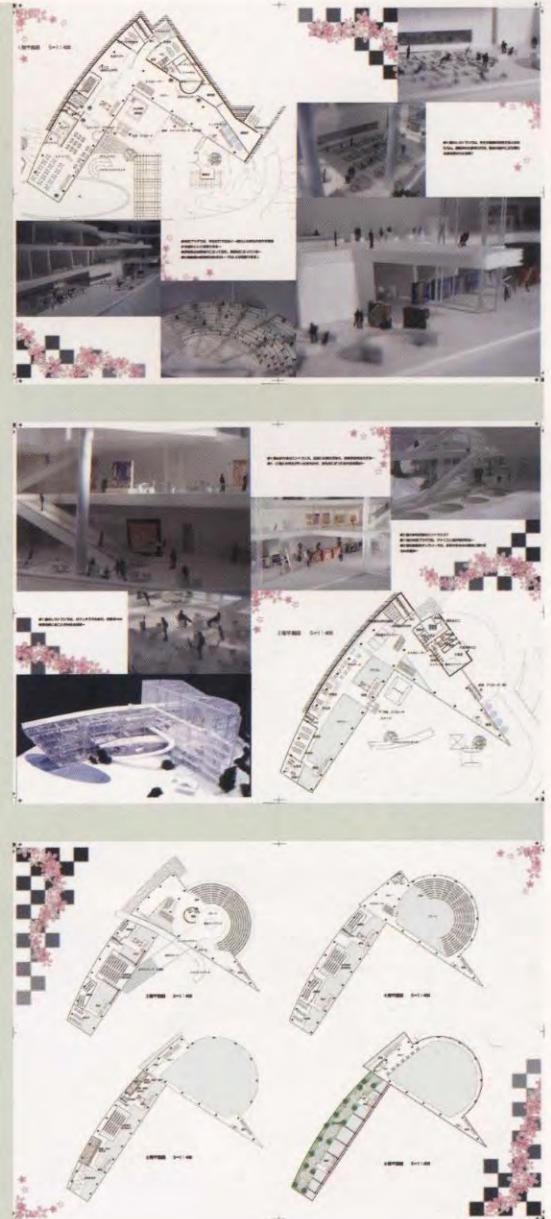
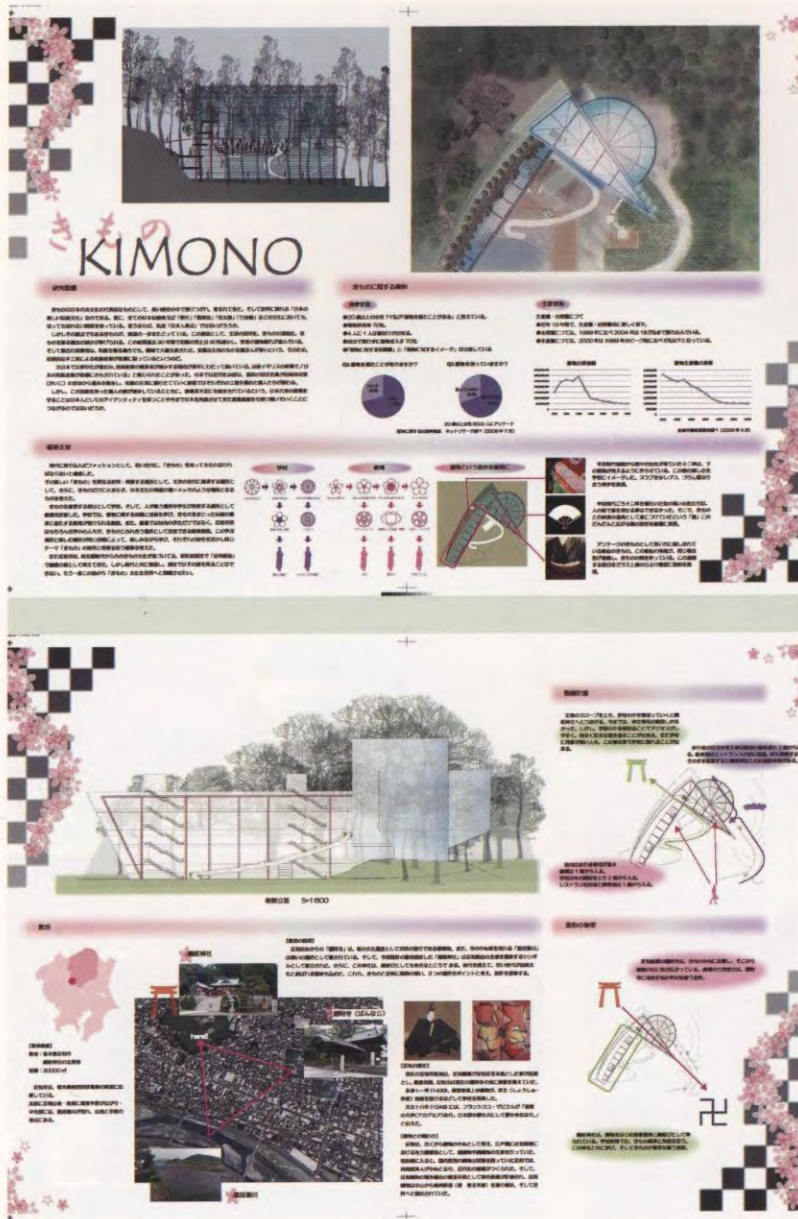
建設会社に勤務し、自社のCAD開発に携わってきました。大学に通うきっかけは、会社で建築士の方と共に仕事をしていたのですが、建築独自の言葉や仕組みが理解できず戸惑うことが多かったため、建築を基礎から学びたいと考え、働きながら通える愛産大を選びました。

仕事との両立は想像以上に困難で大変でしたが、得るものも非常に大きかったです。建築は奥が深く学んでいても常に新しい発見があるので、今後も楽しんで学び、仕事に活用していきたいです。

model



work panel



concept

世界に誇る日本の美しい文化「きもの」が衰退の一步をたどっています。その原因として、生活の西洋化、きもの高額化、きものを着る機会の減少が挙げられています。そこで、時代に合ったファッションとして、若い世代に、「きもの」を知ってもらわなければならないと痛感しました。

そして私の住む「足利」は南北朝時代から古のきもの文化が息づいている昭和後期までは「足利銘仙」で繊維産業の都として栄えていました。しかし時代とともに壊滅し、現在ではその姿を見ることはできません。もう一度この地から「きもの」文化を世界へと発信させたいという願がありました。そこでその美しい「きもの」を更なる研究・発展する場所として、又次の世代に継承する場所として。さらに、きものだけでは止まらず、日本文化の発進の場＝メッカのような場所となる施設を考えました。

comment

着物をテーマとした作品である。足利の関連学校へ設計者自ら体験入学やインタビューを行い、基礎研究を行った。デザインは、スケールの大きなダイナミックな空間が目玉を引く。大空間を構成する構造デザインや設備システムの提案があると、ダイナミックな空間の中にも、肌理細やかな配慮を感じて更に良かったであろう。学校と劇場を複合させたことで、異なるスケールと機能性を共存させる際に、劇場のスケールで全体を構成してしまっており、そこで生じている大味感が拭えない。しかし、自然の中で透明性を重視したデザインにすることで、周囲の自然を身近に感じる気持ちの良い空間になるであろう。

(担当教員：伊藤 潤一)

Hanae Sodeyama

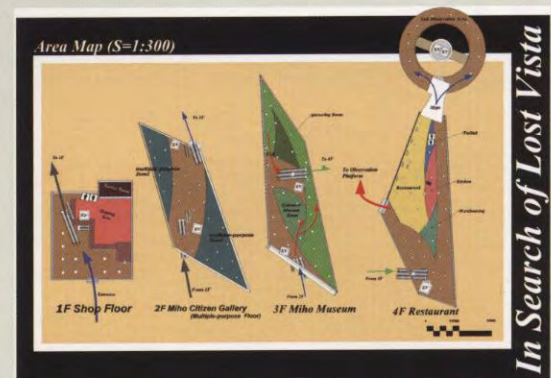
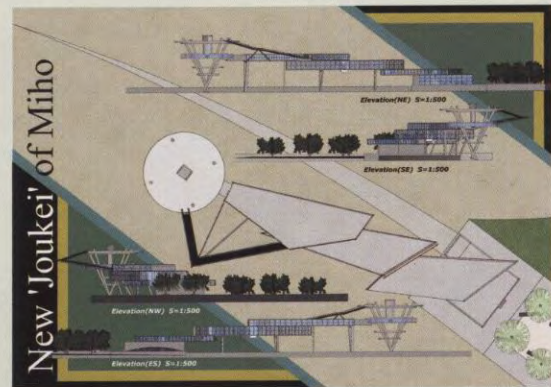
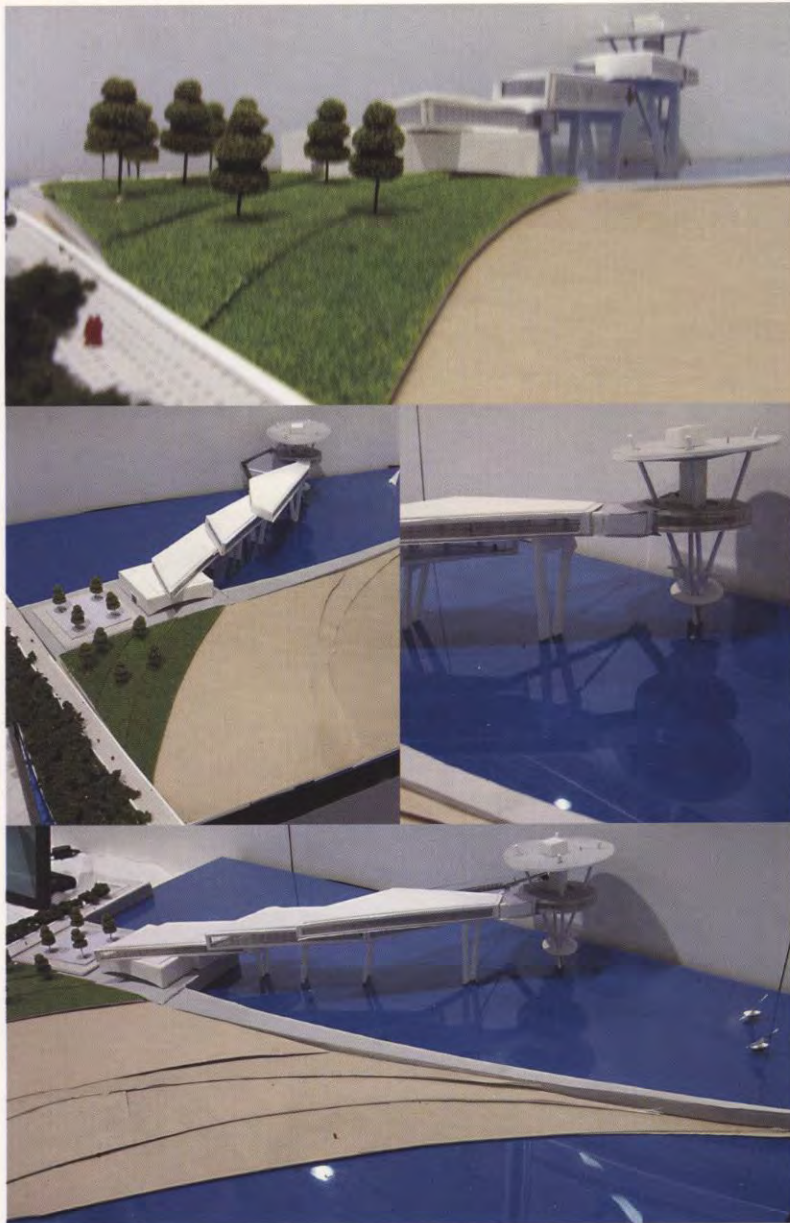
袖山 華絵

栃木県宇都宮市在住
派遣社員
31歳



一卵性双生児として生まれた私。建築設計の仕事は幼い頃から二人の夢でした。しかし色々な事情で、諦めかけていた私たち。30歳目前にした時エンジニアとして成長した妹を見て、忘れていた夢にチャレンジする勇気もらい、大学入学を決意しました。今後の目標は、女性視点の細やかで優しい家造りをしたいと思っています。一つ欲張るとしたら、遠い将来、妹と一緒に仕事が出来ると最高です。

model & work panel



concept

羽衣伝説で有名な三保の松原。「富士山」「松原」「海」の三つを背景し、その景観の美しさより、古くは万葉歌人にも詠われた絶景を有する観光地。

しかしながら近年、海岸侵食によりその絶景が失われつつある。本計画は、その絶景を眺望し、親水エリアを提供するため、漂砂制御工法の一つである「突堤」を用いて三保の松原に、新たな複合観光施設を提案するものである。

comment

駿河湾と富士山を借景とする三保の松原。昨今、この貴重な自然景観が波の侵食により損なわれつつある。益子氏は土木工学的に「突堤」によりこの勢いを食い止めようと全く新しい施設提案を試みた。漂砂制御施設は複合化された観光施設となり、新しいビューポイントを創造することで消滅しかけた情景を新たによみがえらせる事に成功している。アプローチから施設に入り、到達点へと導くプロセスは「わくわく感」を醸成し、海に浮かぶ展望台へ登りきった時の感動が最高潮に達するようにドラマとして緻密な設計がされていることは秀逸である。

(担当教員：白濱 力)

Takashi Mashiko

益子 隆

神奈川県在住
システムエンジニア
(でした。既に過去形)
30代



前の職場で、システムエンジニアとして働いていた頃、元旦のとある全国紙の社会面の「本当に小さい」ある広告が目にとまりました。

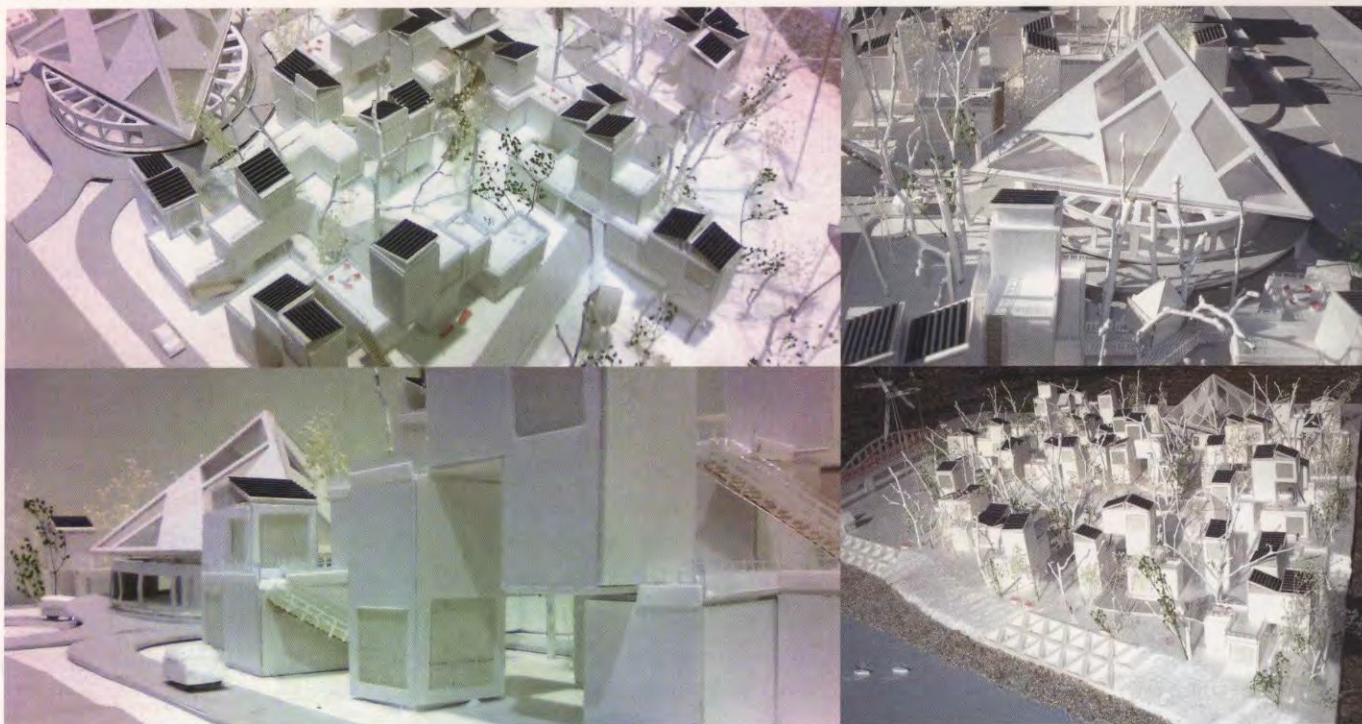
——愛知産業大学通信教育部建築学科

この広告との邂逅は、まさに自分にとって、大きな転機でした。

前の大学は土木系でしたが、土木・建築関係の仕事には進まずIT系に進んだものの土木・建築分野への強い憧れがあり、これはそちらの道へ進みなおす、絶好の機会と思い入学しました。

多くのことを学んだだけでなく、幅広い年齢、職業、目的をもつ、多くの学友との出会い。そしてこれからの自分にとって、「大きな」可能性秘めた学生生活となりました。

model & work panel



concept

茨城県北部の常陸大宮市の御前山地区に長期滞在型の宿泊施設を建設する。御前山と那珂川と付近一帯の里山のよさを五感で感じてもらい、自然と共生して暮らすことを提案するために、環境保全を重視した新しい形の施設を考える。

長期滞在を目的とするために、客室は生活の出来る設備を整えた空間とし、太陽光・風力による発電、雨水の再利用やゴミ処理の設備を備える。この客室は近未来の住宅を提案している。

また、森のなかに住むイメージで建物をたて、光を通すコンクリートの壁を使って光を演出してみる。シンプルな色と形の外観と対照的なツリーハウスを何棟か大きな樹のうえに載せて作り、この魅力的なツリーハウスを集客の目玉としたい。

comment

昭和の時代、我々はどこか自然へ赴き、非日常的な時間を過ごす事で安価に余暇を過ごし満足してきたように思う。時代は非常に便利になり全ての事柄が高度なサービスで提供される。また電気に頼る生活は制限の少ない何不自由ない至福の時間を与えてくれるようになった。しかし現代人は超便利社会に何か物足りない不満を抱くようになった。自ら動いて、自然や人々に決して迷惑がかからず、エネルギーにさえも社会貢献が可能な生活を求めるようになった。「自分で生きている達成感」を求めているのだ。阿久津氏はそれを肌で感じ、本当の夢を持ち、楽しんでこの新しい生活提案の施設をデザインした。作品を見る度、コピ達達が笑顔で賑わって楽しんでいる様子がイメージできる。

(担当教員：白濱 力)

Ayako Akutsu

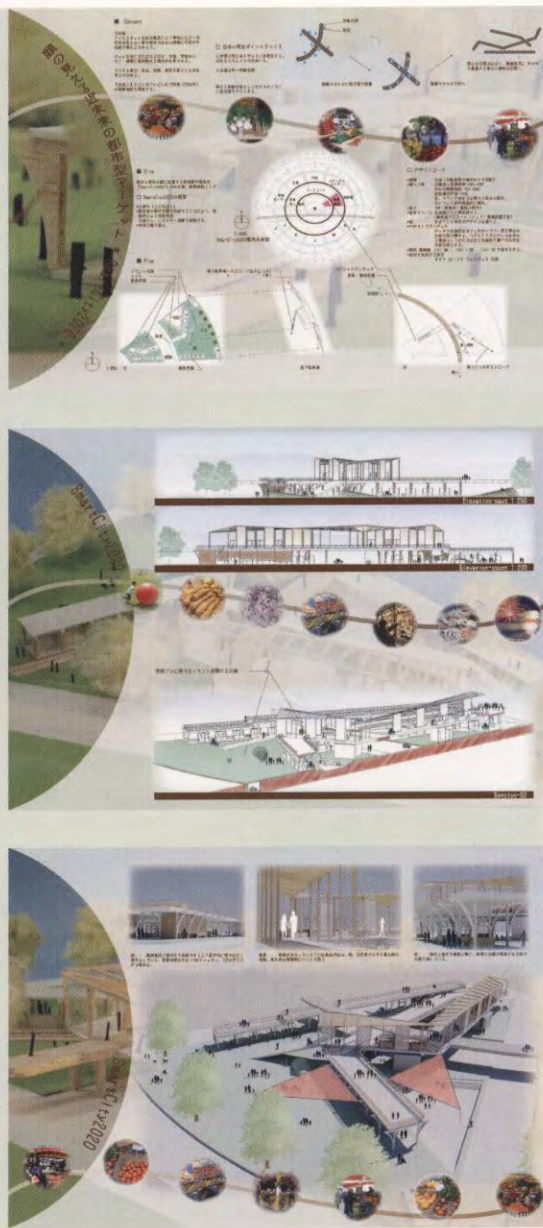
阿久津 あや子

茨城県水戸市在住
住宅検査員であるときは
主婦
アラカン



住宅検査員として2級建築士の資格が必要となり勉強しました。この勉強の結果は建築学科の勉強と重なるのではないかと考えて入学しました。充実した2年間で自分の子供と同じ位の学友に励まされての学生生活はとも楽しいものとなりました。

model & work panel



concept

ネット社会の普及によりあらゆるモノ・情報が簡単に手に入り便利になる一方、相手が見えない事や正確さに欠ける情報で不安や不信感を感じることも多い。ネット社会になればなるほど、本物、実物の「人・モノ・情報」に直接触れ、安心、信頼、真実を得る機会が必要になるであろう。『出会い』をコンセプトにした 10 年後の商業施設を提案する。

comment

東京近郊の新線駅前開発「Smart City2020」は 10 年後の近未来を見据えて、9 人の学生が交通システム、敷地形状、用途、建築協定を計画したもので、マーケットを担当したのが酒井さんです。食の安全や信頼に繋がるよう売手と買手が対面する建物形態を提案し、建物間に食イベントを開催できる場を設けるなど、オリジナリティ溢れた非常に魅力的な作品です。

(担当教員：石崎 友久)

Naoko Sakai

酒井 直子

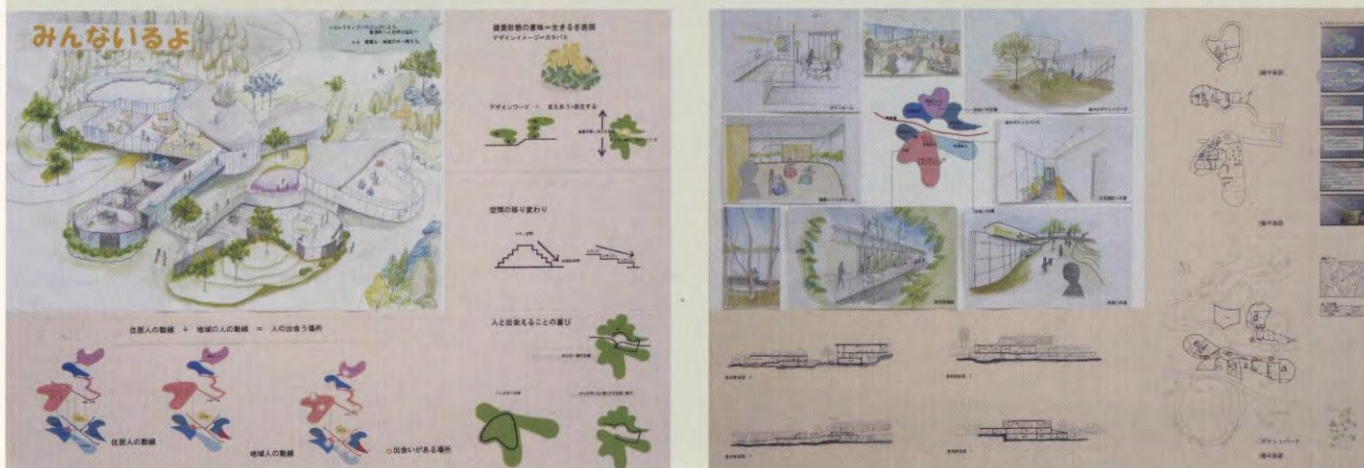
埼玉県在住
不動産会社経営
39 歳



資格取得を目的に ASU に入学、知れば知るほど奥深い建築の世界に触れ、また良き仲間にも出会え大変貴重な時を過ごす事が出来ました。卒業後はまず 2 級建築士取得が目標です。

みんないるよ — コレクティブハウジングにより、東浦町へ人を呼び込む —

model & work panel



concept

生き抜く事が難しい現代である。人は、一人で生きられない。生活は、人との関わりで成り立っている。生きるを手助けする建築を造りたい。

人が豊かに生きるためには、煩わしさの中で生きる事が必要と考える。

煩わしさから学ぶ、生き方や、知恵が人を豊かにし、今後、求められると思う。

高齢化社会には、地域力が不可欠であるが、社会の様々な要因により地域力が都会だけでなく地方でも弱まっている。人と住宅と建築を地域の中へ戻し、地域力を手助けする建築を造りたい。東浦町は、宅地を造成し発展してきたが、近隣都市でも同様の開発が行なわれており、従来型では限界となっている。視点を変えた、住宅や住まい方、自然を残した、建設を提案する。

comment

現在の住環境は画一的な乱開発行為によるところが多い中、市街地郊外の魅力を引き出しながら良好な住環境を目指した作品である。

設計アプローチはコレクティブハウジングを用い、高齢者やシニア世代や若年層との交流にも積極的に取り組み、“カタバミ”という雑草のモチーフが巧みに複数に重なり合いながら造形され、その隙間にコミュニティ通路を設け地域との交流を程よく地域環境に馴染ませた豊かな住環境が得られた作品である。

(担当教員：濱田 修)

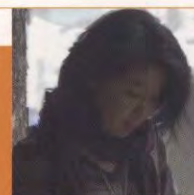
Yoshiko Aoyama

青山 佳子

愛知県在住

主婦

40代

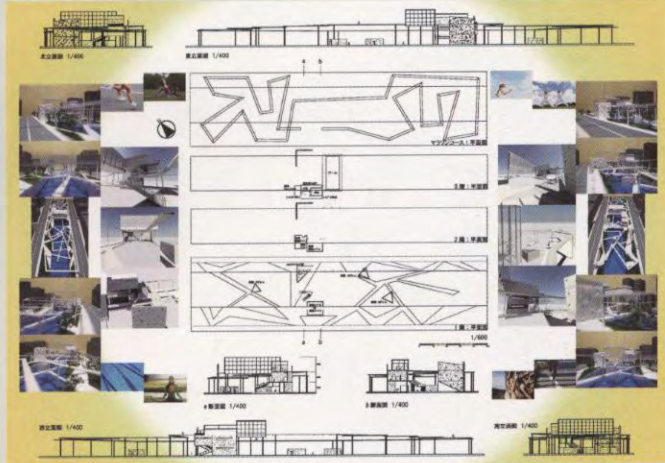


只、単純に大学で教える建築ってどんなだろう。もっと建築を知りたい。だけど、この年での4年間は長い...今更学んでどうなるという思いと、今学ばなければ、一生後悔するという思いの葛藤の中でのスタートでした。届けられた教科書をひたすら読み解く日々の4年間で、途中コースを変更したいと考えたり、設計の授業では、毎回徹夜でした。辛く、落ち込みもりましたが、建築をひたすら考える貴重な時間でもありました。

そして、先生方の数々の励ましと、家族の忍耐のおかげで、今まで続けられたと思います。

癒しの堀川。動ける堀川。 — 浄化されたその後は —

model & work panel



concept

「堀川」は名古屋城築城に際して 資材運搬を目的とした水路として掘削された。その後 数百本の桜や桃を植え 茶屋・料理屋・菓子屋などで賑わい花見舟も繰り出すほど大変賑やかな川でした。しかし 時代の変化 生活の変化から 各家の排水が流れ出し魚が住めなくなり 鼻を摘まみたくなるような川になっていきました。しかし近年 堀川の浄化運動が行われ始め「臭い」「汚い」の代名詞だった堀川が浄化されつつあり至るところで再開発が行われ始めました。

そこで
人が集まり 堀川を感じてもらえる空間を求め「憩いの空間」「動ける空間」を提案します。

comment

川にできるだけ近づけ親水性を語る設計手法が標準的と思われるが、本作品は川と空の間に挟まれ一定の高さを与えることで極めて自然な空中浮遊した空間を建築的に設けたことが評価できる。また、川の本質を損なうことなく薄く細い建築である。通常ならば河川法などの法規制で実現することは極めて難しいと思われるが、その法規制の幕を一枚めくことで素晴らしい世界を手に入れることができるのだという可能性を示し常識の中に刺激を与えた作品である。

(担当教員：濱田 修)

A k i l i t o

伊藤 亜紀

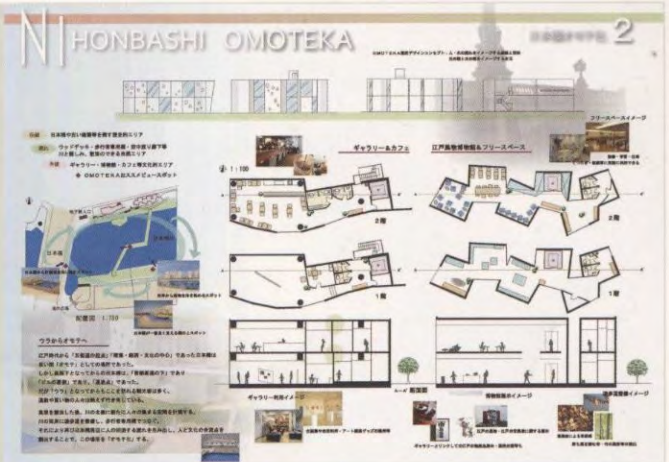
愛知県在住
不動産会社勤務
30代



5年目にしてやっと卒業研究をすることが出来ました。
1年入学の辛さは 先の見えないことでした。
2年目の夏過ぎ 全くやる気が起きず 全てのテキスト・参考書を目に触れないところに陥りました。
2年目が終わっても まだ3・4年目と続くかと思うと先の見えない闇の中にいるようでした。
好きで入学したはずなのに どうして苦しむのか・・・。
辞めてしまえば楽になれるはずなのに 何故か辞めたいとは思わずただただ時間だけが過ぎて行きました。
そんな時
仲間に出会えました。
仲間にも励まされました。
そして 卒業制作を終える事ができたのだと思います。
仲間に 出会いは 感謝です!!!

日本橋 OMOTEKA

model & work panel



concept

江戸時代より五街道の起点であり、経済・流通の中心でもある東京・日本橋を「ウラ」から「オモテ」へと再生させる。現在日本橋の上を通る首都高速の高架を地下化する計画が実現した後、という前提で、日本橋周辺に再び人々の流れと合流点を生み出す計画である。

comment

かつて江戸の中心地であり、五街道の起点であった日本橋、今は首都高が被さり都市の喧噪に埋没している。昨今、この醜い都市景観を見直そうとする動きは有るが未だ実現化していない。伊藤案はそこに着目し、すっかり薄暗く汚れ目にも留まらぬよう「裏側と化」した歴史的拠点を何とか人々が再度賑やかに活動ができる場を「表化」として新たな空間を提供してみようとする意欲的な試みである。求められる全体の一部を切り取り、定説の親水性や都市公園化に留まらず、兩岸を一つの回遊式公園と捉え、賑やかな商業施設を立体的に結び等、人々の動きに流れと揺さぶりを与え、かつての江戸の水のエリアを活気立つ仕掛けが巧妙なデザインである。

(担当教員：白濱 力)

K a o r i t o

伊藤 香

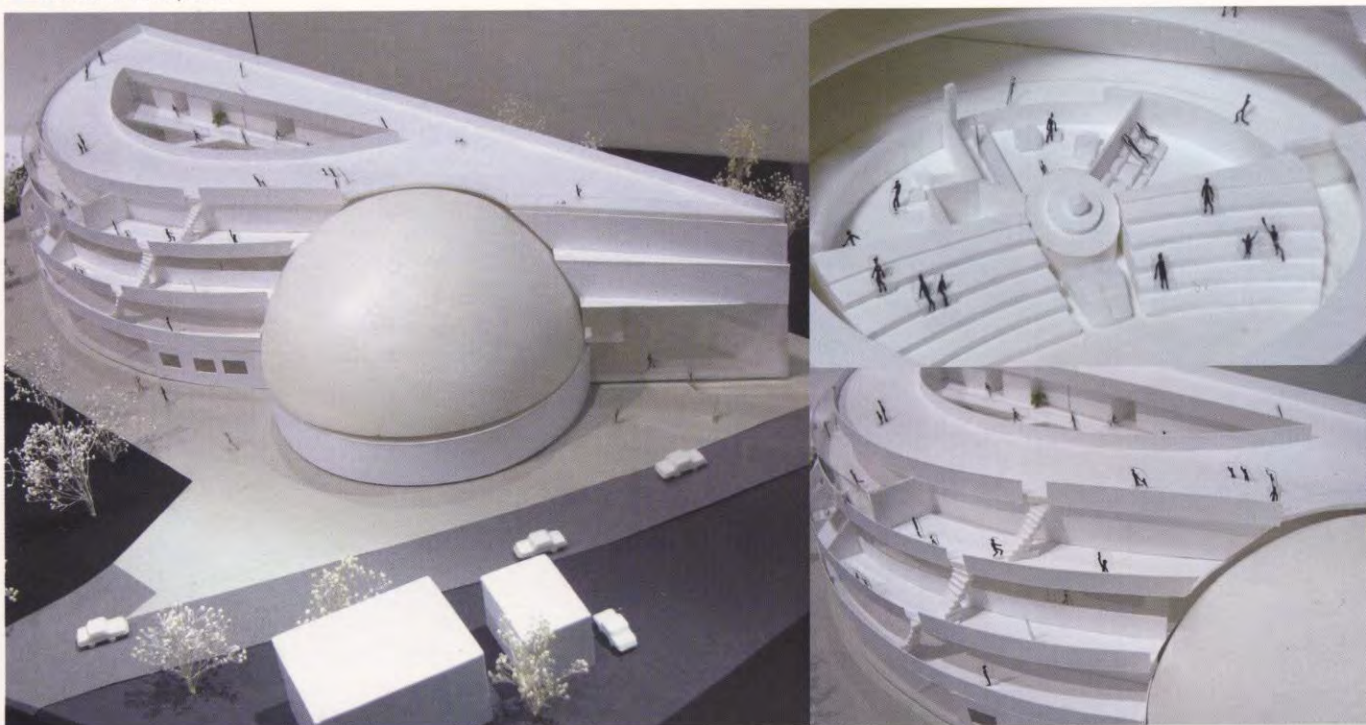
東京都在住
設計事務所勤務
44歳



以前は絵を描いていましたが、縁あって建築の仕事に関わることになり、一から勉強開始しました。課題やスクーリングでは、プレゼンパネルや構造力学等、楽しんでるけれど、先生のフォローや学生間での情報交換があって、なんとか卒業にこぎつけられたと思います。

愛産大では建築を構成する様々な要素を駆け足で学んで来ましたが、これから先の学習と実務で、それらを深めていきたいと思っています。

model & work panel



concept

日本はプラネタリウム大国といわれている。しかし、バブル期につくられた多くのプラネタリウムの実情は決して良いものではない。集客難、投影内容の偏り、低収益性などに加え、建物自体の老朽化や投影機更新にかかる問題など、数多くの課題をかかえている。そのため継続が困難な館は閉館を余儀なくされるが、その一方で閉館反対運動が起き問題をさらに複雑にしている。

本研究では、地域におけるプラネタリウムの文脈を生かしつつその機能を再生するため、集合住宅（シェアハウス）との複合化を提案し、他の一般的なプラネタリウムとの差別化をはかり有用化をめざす。これは同時に、多様化する住宅需要への解決策を提示する試みでもある。

comment

本計画は、プラネタリウムを集合住宅としてリノベーションする提案である。設計者自身がプラネタリウムに携わる仕事をしており、提案における現状分析等の研究は実体験を含めた学術的枠を超えたものである。プラネタリウムという独特の空間を、集合住宅へ置換する方法については困難を伴った。公共性を一定域で保ちつつ、住居としてのプライバシー性を併せ持つことを吹き抜け空間に見出そうと試みている。住居戸数など建物の経済性、有効利用における空間構成をさらに考察することで、より現実性をもった提案になったのではないだろうか。供給過剰なハコモノ建築に対して、挑戦的に取り組んだ作品と言える。

(担当教員：伊藤 潤一)

Tokiko Eguchi

江口 宗子

埼玉県在住
プラネタリウム関係
20代

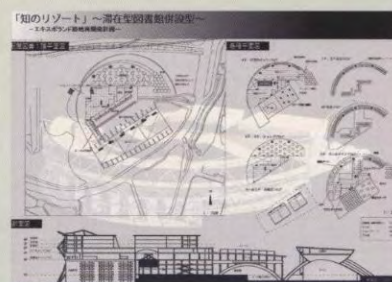
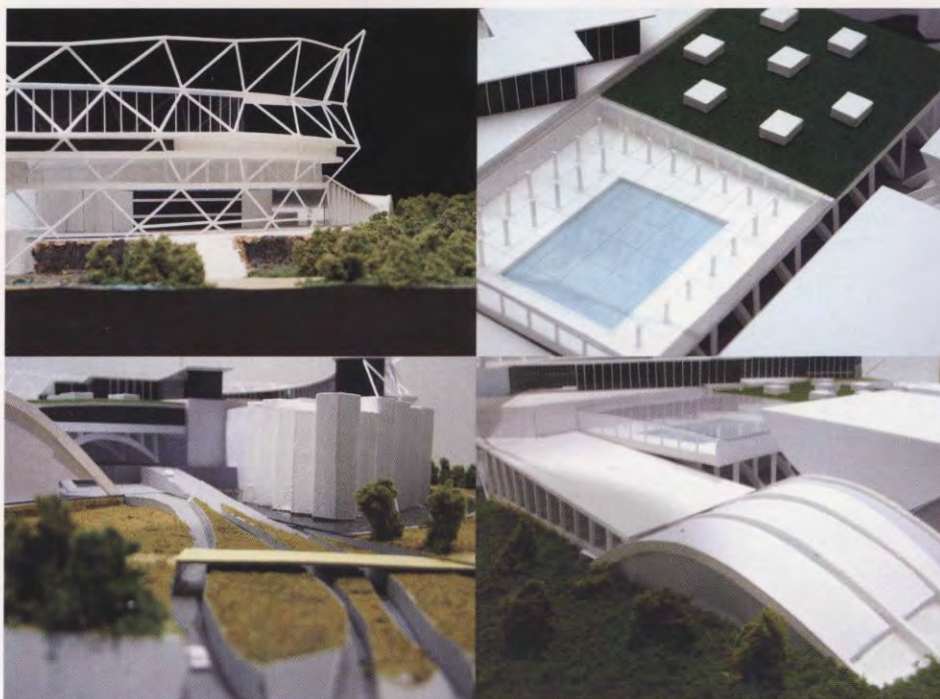


理屈だけでなく具体的なカタチで社会に働きかけられる建築の力に興味をもち、また、旅先での楽しみ方に建築という切り口があったらおもしろいと思い、勉強してみようと入学しました。

建築の世界は想像以上に奥が深く、飽きることがありません。2年間あっという間でまだまだ学び足りないと感じる部分もありますが、今後いろいろなところに足を運び、自分なりに建築の知識や考察を深めていきたいと考えています。

「知のリゾート」～滞在型図書館併設型～ — エキスポランド跡地再開発計画 —

model & work panel



concept

物質的、金銭的充足が必ずしも心の充足とならないことを知り、人も企業も、そして国家もその向かうべき目標を定めきれない現代において、新しいリゾートのかたちとして「知の充足」をテーマとする「知のリゾート」～滞在型図書館併設型～を提案する。

この提案に相応しい場所として、かつて壮大な大阪万博が開かれた千里万博記念公園の「エキスポランド」跡地を計画地とする。

comment

消費社会にあって大衆レジャーは多様化している。しかし、依然享乐的な商業的消費レジャーが主流である。かつて金持ちだけの特権であった海外旅行へ出かけ、のんびりとセルフタイムを過ごす最も贅沢なバカンスは今でも日本人にとっては贅沢な時間と金の浪費と見なさせる傾向がある。そこに榎氏が着目し、もっと気楽に新しい都市型で自分だけの本当に欲しい時間を得るレジャーを提供できないかを考察した傑作である。自由な時間があればむさぼるように読書をしたいという需要なかなりの数に上るであろう。その行為（時間）を知的なリゾート（空間）としてひとつの施設（建築）に集約化した。大阪万博跡地という適地の着眼点がすばらしい。

(担当教員：白濱 力)

Takashi Enomoto

榎本 孝史

群馬県在住
制御系エンジニア
44歳

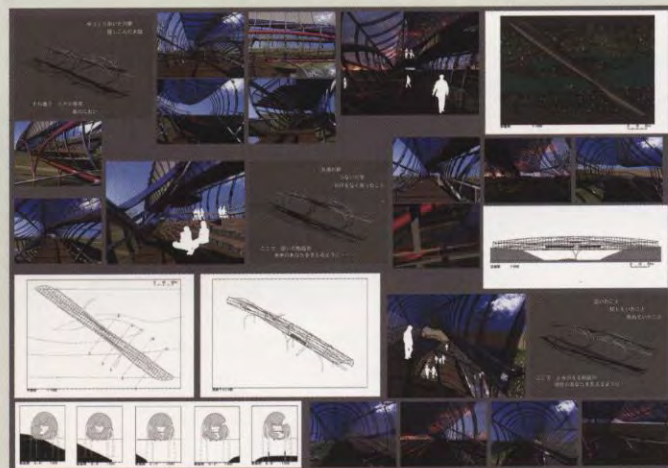
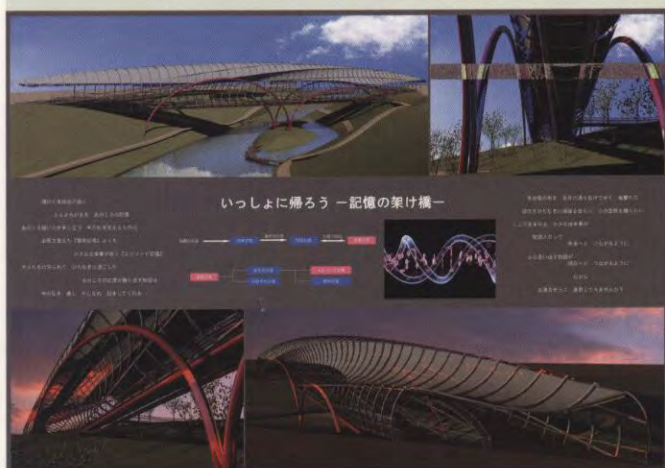
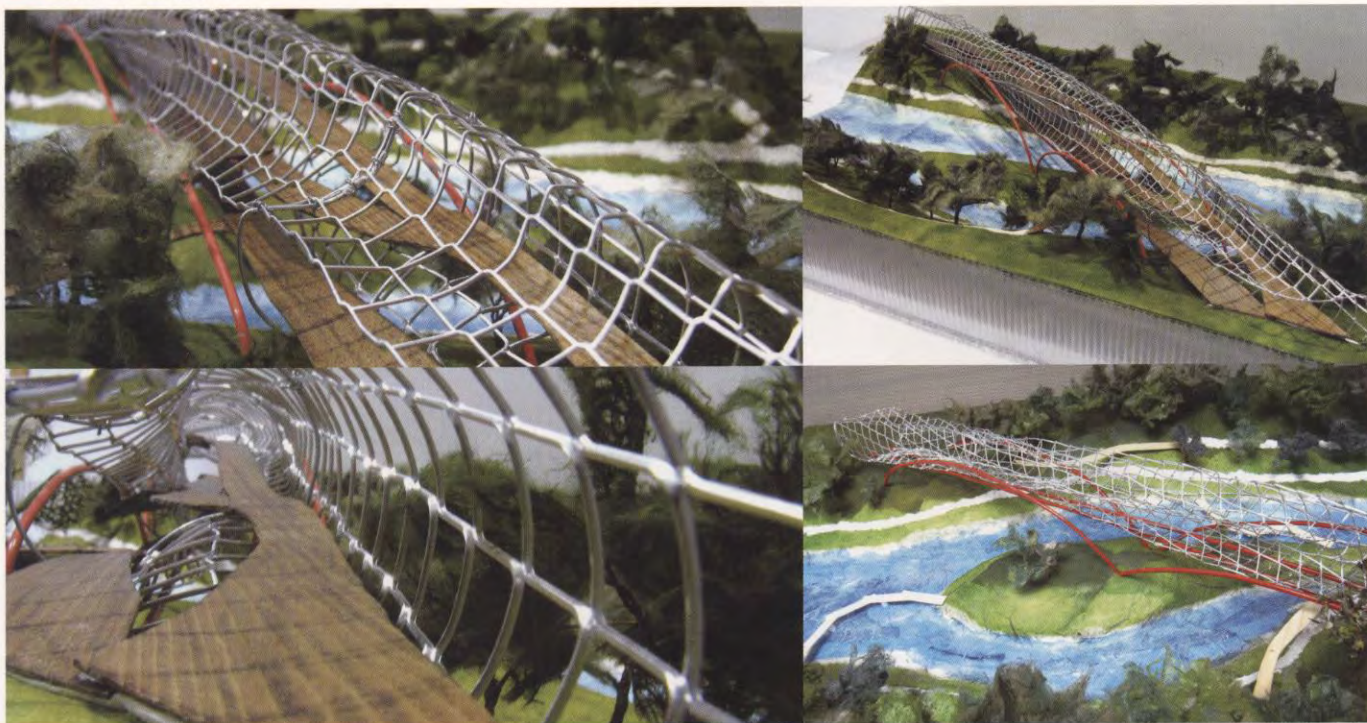


始めは単純に自宅を設計してみたいと思い二級建築士の受験資格を得ることが入学の目的でしたが、学ぶにつれ建築のもつ公共に対する責任や、歴史、風土を踏まえることの重要性など、建築やデザイン全般に対する視野が広がったことが大きな収穫でした。

卒業研究では実家のすぐ近くにあり慣れ親しんだ万博記念公園は跡地利用について取り上げ、自分なりの提案ができたと思います。

今後は先ず当初の目的である資格取得をめざします。

model & work panel



concept

街を足早に通り返っていく高校生たちへ、意味記憶だけでなく、エピソード記憶を大切にしてほしい、という思いをこめて、通学路上の川に歩行者用の橋を作りました。多自然型の堤防と、記憶の象徴たる二重らせんをモチーフとした3層構造の橋に、人々が行き交い、集い、憩うことで、エピソード記憶がつくれ、また記憶が想起されることを目指しました。友達を誘って、ここで道草していきませんか？という提案です。

comment

先ずこの橋の美しさに心魅かれる。この場所を歩いてみたくなる。この作品は、うねりながら絡み合う様々な思いを表現している。忙しい日々の中、足早に通り返ってゆく人々。普段見慣れた風景に気を留めることもない。そんな川・道・風景は橋と一体となり、橋を単に川を渡るものとしてではなく、そこに人と人を結ぶ空間を実現し、記憶を留めようとしている。橋梁としての構造に疑問感はないものの、それを超越したコンセプトと造形の融合を感じる作品である。

(担当教員：木下 太)

A y a O f a

太田 紋

岐阜県多治見市在住
タイル製造業
30代



陶磁器産業の街に育ちタイルメーカーに勤務する私は、これまで一途にタイルを愛し我武者羅に働いてきました。建築を学ぶことにしたのも、より良い製品を作るために建材の選ばれ方や使われ方を知りたいと思ったからでした。それなのに、学ぶにつれすっかり建築に魅了されてしまい、今はただ困惑しています。

ここで学んだ「思いを形にかえること」と「形の力で問題を解決すること」は、きっとあらゆる創造の場に活かせると感じています。それを常に意識しながら、今後とも真摯にものづくりに携わって行こうと思います。

model & work panel



concept

Practicality (有用) からそぎおとされたものたちには、Treasures (宝もの) に成り得るものが含まれている。それは、有用という現在の教育の枠に納められない発見や気づき、きっかけを与えてくれるものではないか。

植物園は自然科学系博物館として地域知育の拠点となる。誰にでも開かれ、成長の段階を追って何度も訪れることにより、科学リテラシー教育を遂行するものとして期待できる。植物を通しての気づきは、自己教育力を育て創造性のある心豊かな人間育成を可能にするのではないか。

何万年の時を超えて活用される遺伝子や生物資源、生物多様性など、植物には近年、未来へ繋ぐ宝物としての注目が集まっている。ここでは地域植物園の調整を通し、グローバル世代のこれからの教育環境を考えたい。

comment

伸び伸びとした造形が豊かなイメージを喚起する作品である。現存する大船フラワーセンターを都市の貴重なリソースと捉え、そこに教育というテーマを導入することで再生を図ろうというコンセプト。古い施設に新しい建築を重ねて、全く違う情景を生み出そうとするデザイン。これが見事にマッチして、生まれ変わった新たな施設の持つ可能性が象徴的に表現されている。ここでどんな出来事が起こっていくのか、考えるだけでワクワクするような楽しさがある。

(担当教員：久原 裕)

Yuka Kasajima

笠島 優香

神奈川県在住
主婦 (日本語教師、看護師、翻訳・通訳)
50代



20代からヨーロッパへ行く機会が多く、スペインには10年程住みました。街は何処を切っても美しく、その頃から建築への興味が湧いていました。ASUへ編入したのはそれが通信で学べると知ったからです。2年のつもりが色々な Happenings で5年になってしまいましたが、ライフワークと考え学習に臨んできました。長きに亘りご指導賜った先生方や温かく見守って下さった周囲の方々、大いに協力してくれた夫と息子には大変感謝しております。

このテーマは幼い息子とカナリアの Botanical garden で過ごした日々や旧市街と新市街、古い物と新しい物の融合、新建築に触れた経験から導き出されています。他にも今までやってきた事と建築に関して気になるテーマが沢山ありますので、今後はそれの一つずつまとめていきたいと思っています。

model & work panel



concept

トルコ観光業のあり方を問い、新たな宿泊施設を提案する。東西の中継点であり文明発祥地と言われるトルコは、毎年多くの人たちが魅了され、観光目的に訪れる。

しかしトルコの魅力は建築や建造物に限らない。客好きで親切、時にウンザリする程のおせっかい。人懐っこさから離してくれない、濃密なおもてなし。これらは、大家族や親戚付き合いを社会の構成単位として築きあげた愛情表現であり、現在まで継承される、誇るべき特異文化と言えよう。

そんな、「人を観光資源」とし、「もてなし文化を世界遺産」とする宿泊施設。それがミンパクだ。おせっかいが恋しくて、逢いたくて訪れる。忘れられない濃密な空間、ミンパクは今日も観光客でにぎわう。

comment

この卒研プロジェクトは実に妙である。トルコという国にハマってしまった学生のプロジェクトで、評価の幅が最も広がった作品である。卒研成果品としての図面や模型から、真のテーマを読み取るには困難を要する。その困難が起因して、注目せざるを得ない作品となった。既存の建築的常識を越えた図面であり、人に衝撃を与えている。模型にフタをした作品は未だかつて目にしたことはなく、見る人に見る方向を強制している。こういう作品は、あっていい。

(担当教員：松田 力)

Sanae Koseki

小関 早苗

東京都在住
構造庶務
30歳



ゼミ名「トルコ」が送られた松×松ゼミは、「目指せC通過！」を合言葉に始まる。

よし、本気で狙ったる、極上のC通過！と固く決心する。

思えば、ほとんど建築的コメントをもらった記憶が無い。しかし、これは指導教員の「愛ある指導」と、私は受け取る。

万人にわかりやすい表現のつもりが、大半が理解不能と聞かされる。何で理解不能なのか、こっちが理解不能になる。

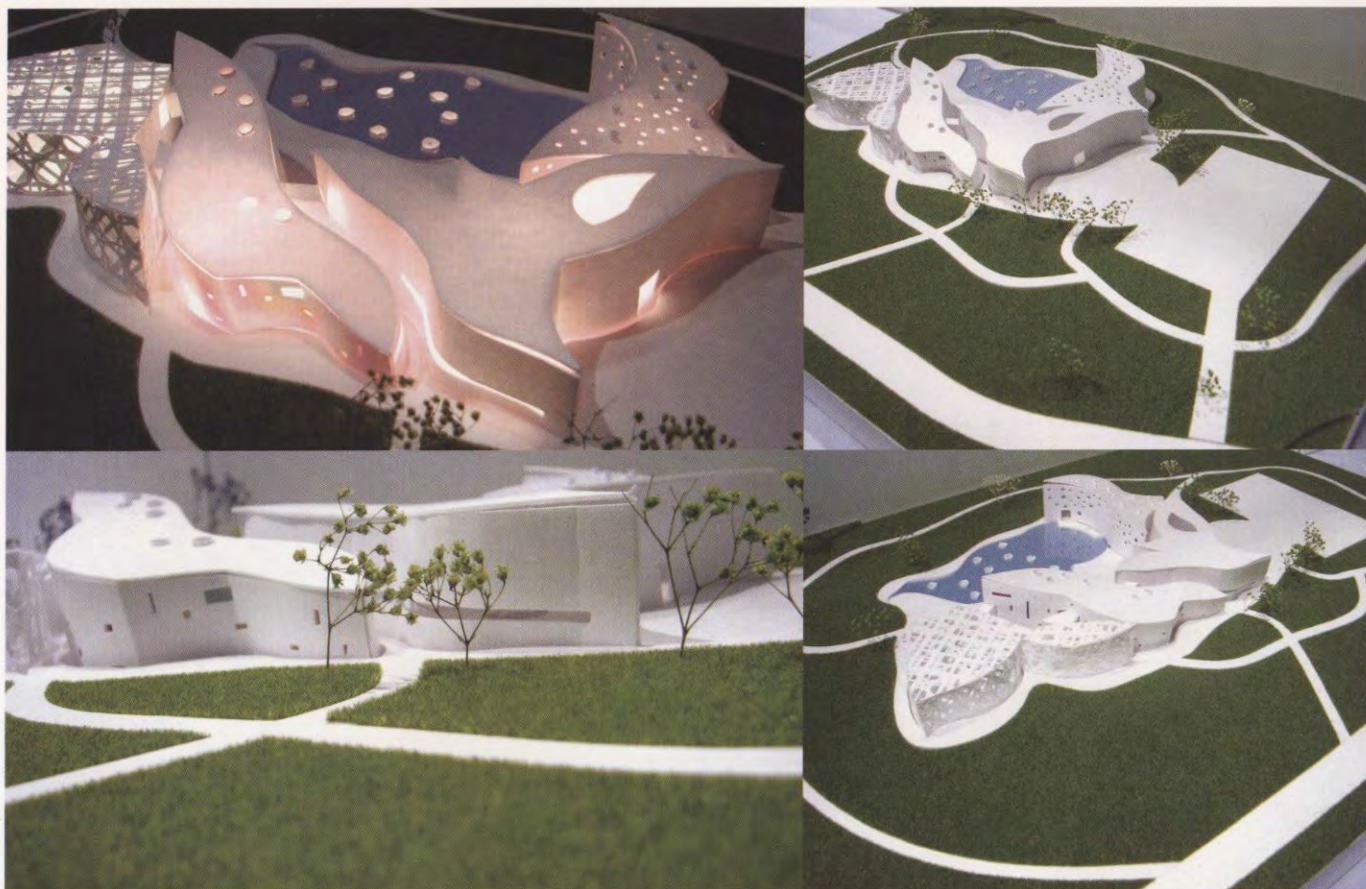
作品はひたすら手で描いて、切って、貼った。故にCADの使い方を忘れた。

カフェを梯子し、制作に没頭した。没頭しすぎて、A1パネルや模型まで広げてしまったことは、ちよっぴり店員に謝りたい。

なんて文章を書きながら、この瞬間もトルコと建築が頭から離れないトルコ子である。

光の美術館

model & work panel



concept

美術館ではあるが、いわゆる美術品は何もない。建物自体が美術品であり、開口から漏れる光が展示物となる。開口の開け方、集光装置を使ったスポットライトなど、自然光を使ってさまざまな光の表情を見せる。見るだけでなく、お気に入りの部屋を見つけてくつろげる、そんな美術館である。回遊式的美術館になっている。

comment

「光」という建築にとって根源的なテーマを、徹底して追求し続けて生まれた作品。研究は光の装置をただひたすら作り続けることに終始した。それゆえに浮かび上がる深い強さがここにはあって、現代の建築が失いかけている大切なものを私たちに思い起こさせてくれる。複雑な造形による入り組んだ空間と、時間や季節とともに移ろいゆく光の様相とが重なり合って織りなされる変化に満ちた事象が、イメージ豊かに描かれている。

(担当教員：久原 裕)

Kumiko Takada

高田 久美子

千葉県在住
CAD オペレーター
30代



建築の専門的な知識を身につけて仕事の幅を広げたいと思っていたところ、通信で学べる愛産大を知り、入学しました。

デザインや設計なんてできないと思っていましたが、いざ始めてみるとワクワクして楽しみながら課題に取り組んでいる自分がいました。こんなに物事に集中して打ち込めることなんてなかなかないと思います。

今後もこの経験を活かし、さまざまなことに挑戦していきたいと考えています。「やらないで後悔するよりも、まずはやってみよう」

model & work panel



concept

子供たちが安全で広々とした公園で遊び楽しさが続くようなスペース。
建物が公園のように遊べる、集える、安らげる空間を計画する。

現在この地区では、地域の子供に健全な遊びを与え、子供の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的として設置される児童館の数が少なく利用出来にくい状況にある。計画地である公園を利用する人々は、近隣地域、区民の住民だけでなく地区住民や近隣に老人福祉施設などもあることからお年よりも多く、公園内を散歩する姿を多く見かけるが、公園内には、休息スペース、トイレなど非常に少ない。そのことから、多くの人々が集え、休息スペース、更衣室、トイレなどを設け、児童館を兼ねた複合施設の提案である。

comment

公園と一体化した児童館コミュニティセンターの設計である。グリッド構成されたキューブをアブストラクトに構成することで、公園に置かれたモニュメントのようなポップな作品である。屋根の架かった半屋外空間の模型写真が印象的で、雨天時などでも子供達が元気に遊ぶ様子を想像させる。キューブを覆う半透明な素材についての構造や工法、素材などの具体的な提案があれば、より現実的な提案であったろう。また、キューブについても、子供のスケールを考慮して、バリエーションを持たせることで、より変化に富んだ空間構成が可能となつてのではないだろうか。設計者自身が母親としての視点で考えた愛情と暖かさを感じる作品である。

(担当教員：伊藤 潤一)

Kanako Mouri

毛利 加奈子

東京都在住
主婦
30代

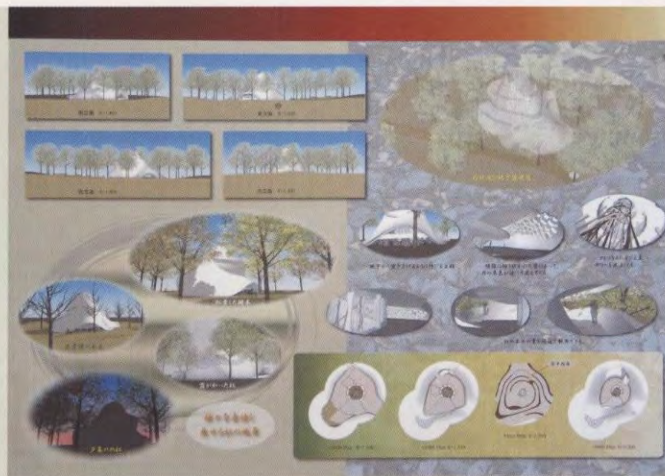


インテリアコーディネーターの資格取得時、建築に携わることが多く、建築について勉強したいと思うようになりました。働きながら勉強できる愛産大の通信教育を知り入学しました。途中、出産や病気で休学し、勉強がなかなか進まず挫折しそうになりましたが、やっと卒業研究までたどり着くことができました。卒業研究は大変でしたが、製作中はとても楽しく、こんな建物があったら・・・なんて想像しながら自分の考えをまとめ形にしていく過程も楽しかったです。

また、伊藤先生をはじめ、ゼミのみなさま、家族の支えがあり、卒業研究ができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。今後については未定ですが、これからも建築の勉強を続けたいと思います。

原点回帰の杜

model & work panel



concept

多彩な表情を見せる杜の風景を、様々な角度から眺めることで、訪れる度に新たな発見が得られる空間作りを目指した。それは単に癒しを提供する場ではなく、“気付き”が得られる空間であり、ものごとには違った見方、考え方があふれることを知ることで、たとえ今の情勢が厳しいものであっても、前向きに考えられるヒントを得られ、あるいは“本来の自分”を取り戻すきっかけになることを期待するものである。

デザイン・計画面では、自然の中に残された森というよりは、人々に守り育てられた人口の“杜”を立地に選び、杜との調和よりも、杜の中に浮かび上がるような風景を目指すことで、社会に訴えかけるような象徴的な要素を持たせるようにした。

comment

行く先を見失いがちで、ストレスに晒されている現代。この建築空間に身をおき、空間を透して自然を感じることで、人間の感覚を刺激し、本来の自分へと再生させようとする計画である。敢えて人工的な都市の杜に計画することで、一見自然とは不似合いな建築は、都市の隠れ家となり、微妙なバランスを取っている。また純白に統一された模型はコンセプトを表現するに相応しく、地下に展開される空間を垣間見るものに仕上がっている。刻々と変化する杜の表情と建築空間、そして人の心が一体となる空間を目指した作品である。

(担当教員：木下 太)

Kazuki Yatani

矢谷 和基

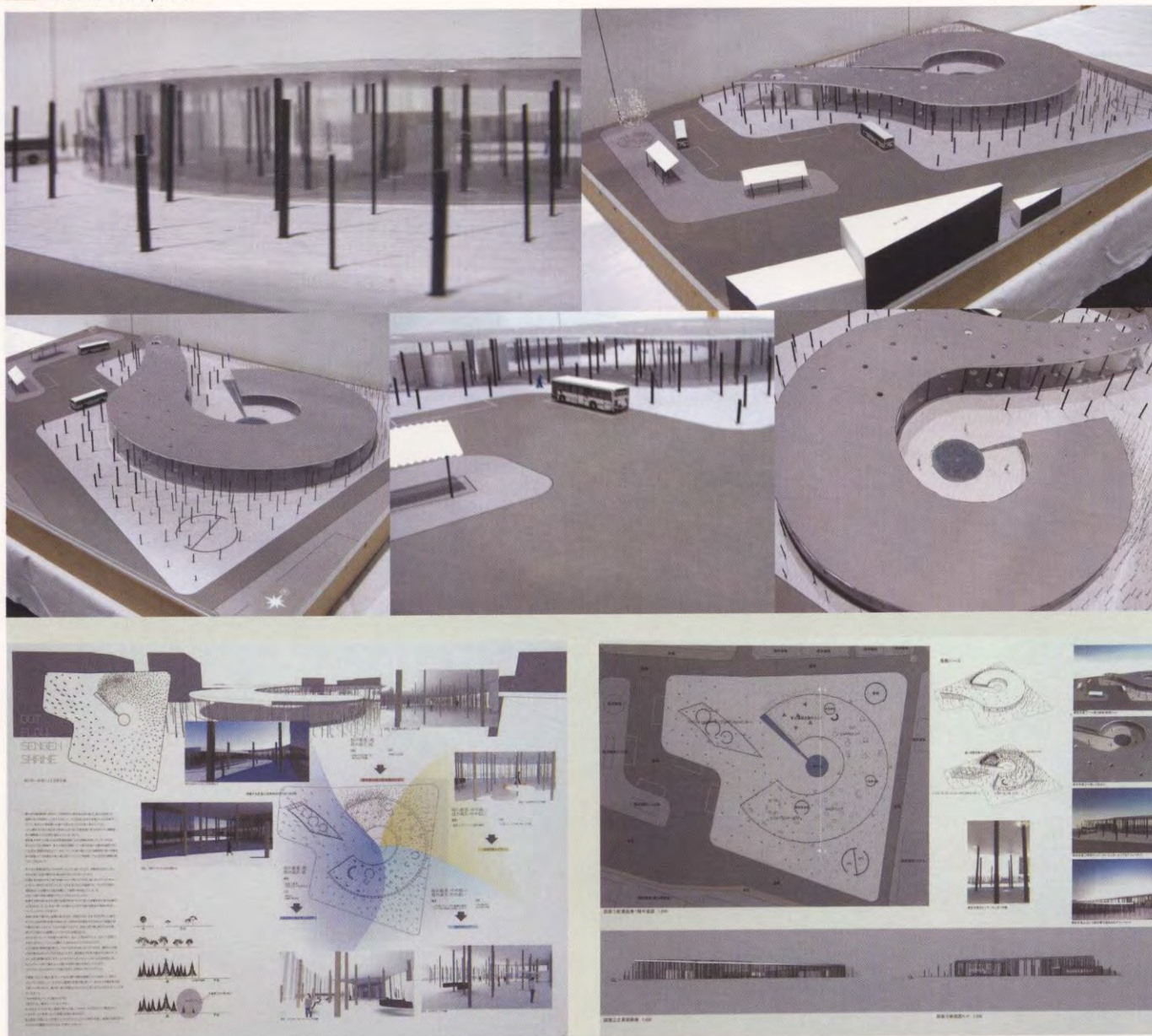
愛知県安城市在住
製造業
29歳



小さい頃から工作が好きで、大学では機械工学を専攻し、現在は会社で自動車部品の設計・開発を行っています。一昨年は仕事の後も時間に余裕があったので、何か新しいことにチャレンジしようと思い、ASUへの入学を決めました。最初は建築士の資格を取りたくて、とりあえず卒業出来ればと思っていましたが、スクーリングで出会った仲間と一緒に建築を学んでいく中で、少しずつ建築そのものの魅力に引き込まれていったように思います。せっかく卒業資格を得たのだから、いつか二級建築士の試験にチャレンジしたいと思っています。

DOT FLOW SENGEN SHRINE — 森の形～密度による空間定義 —

model & work panel



concept

本研究ではその「森」に着目し、建築によって表現された森の空間と対峙することによって日本人が感じた森に対する太古の記憶を呼び覚まして欲しいと考えました。

建築的側面から森の空間、森のかたちを考えるうちに面白いことに気がつきました。

「木が何本立っていたら森なんだろう」

1本だと「木」、数本立っていると「木立」

もっと生えていけば「林」、密度が増すと「森」になります。みな同じもので構成されていますが、その密度によって空間の定義が異なります。

ある単位が粗になったり密になったりすることによって空間を定義し、建築の空間の中のエリア分けや機能分けができないか考えてみました。

comment

古くから富士登山口の起点であった富士宮の歴史やその精神を分析して「森」というキーワードによる抽象的な概念を導き出している点がまず面白い。この概念を空間装置へと展開し、弛緩した現代の富士宮の中心に唐突に出現させているところがさらに面白い。本質をえぐり取るようなこの建築が街にどんな現象を生み出すのか、実際に見てみたい気持ちにさせられる。空間表現はやや概念的にすぎるくらいがあるものの、明晰さが生み出す強さがある。

(担当教員：久原 裕)

Satoshi Watanabe

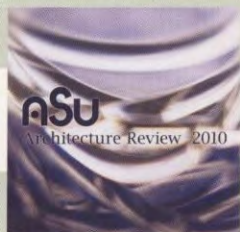
渡辺 聡

静岡県在住
建築関係
30代



幼いころから色々なことに興味がありましたが、自分が本当になにをやりたいのかわからないまま年を重ねてしまいました。そんなとき総合学問であり、総合芸術でもある「建築」に出会い、建築に関する知識を深めたいと思い通信制のこの大学に入学しました。ある程度自分のペースで学習ができる在宅学習は自分に向いていました。大学で学んだことによって建築に対する接し方もだいぶ変わったように思います。大学は卒業してしまいましたがこれからも「建築」というものを考え、知っていこうと思います。

公開講評会の開催



平成22年度 建築卒業研究展 卒業研究公開講評会

日 時

平成23年3月4日(金)
18:00~20:00 (開場17:30)

場 所

名古屋都市センター11階
[金山南ビル/名古屋市中区金山町1-1-1]
卒業研究展会場および大研修室 (ホール)

主 催

愛知産業大学通信教育部造形学部建築学科

ゲスト講師

谷村留都 / アールアンドエス設計工房
宮崎晋一 / 空間設計aun
塩田有紀 / 塩田有紀建築設計事務所
宇野勇治 / 宇野総合計画事務所

発表者

青山佳子さん

みんないるよ
今後求められる建築・コレクティブハウジングにより、東浦町へ人を呼び込む

伊藤亜紀さん

癒しの堀川。動ける堀川。 ~浄化されたその後は~

太田紋さん

いっしょに帰ろう 記憶の架け橋

江口宗子さん

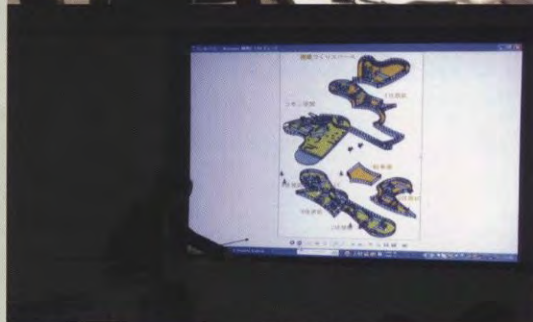
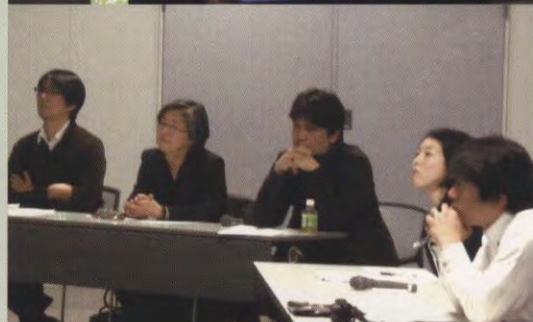
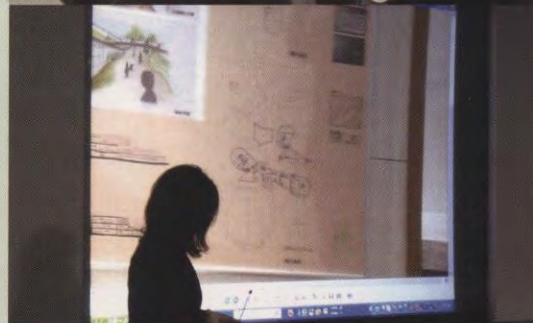
ハコモノを有用化する集合住宅
「プラネタリウム」×「シェアハウス」で実現する既存施設の有効利用

愛知産業大学通信教育部建築学科では、
社会人をはじめ様々なバックグラウンドを持つ学生が、キャンパスを離れた
それぞれの生活の場を手がかりに建築を学び、卒業研究に取り組みます。
今年も意欲的な研究が76点あつまり、その中から選ばれた
15点による卒業研究展を名古屋と東京で開催いたしました。

この機会を活かし学外の専門家や研究者を招き「公開講評会」を開催いたしました。

建築は、社会との関わりの中で考えられ構築され評価されるもので、
それは卒業研究といえども変わりません。

広くいろいろな方からの忌憚ないご意見、ご批判を賜ることで、
学生も大学もより成長できると思います。



卒業研究展の記録

愛知産業大学 主催 展覧会



名古屋展

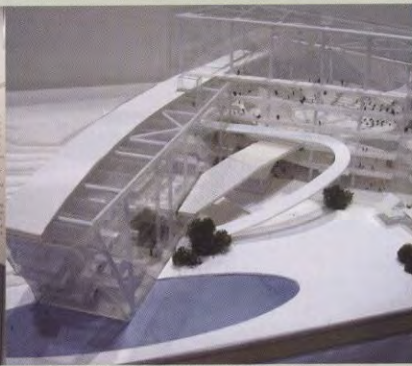
会場	名古屋都市センター 企画展示コーナー (金山南ビル 11F) 〒460-0023 名古屋市中区金山一丁目1-1
会期	2011年2月22日(火)～3月6日(日)
時間	10:00～18:00(火～木)・10:00～20:00(金) 10:00～17:00(土日)
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品15点
入場料	無 料



東京展

会場	建築会館 ギャラリー(日本建築学会) 〒108-8414 東京都港区芝五丁目26番20号
会期	2011年3月25日(金)～3月27日(日)
時間	10:00～18:00 ※3月25日(金)は19:30まで
内容	通信教育部の建築デザインコース および建築学科の優秀作品15点
入場料	無 料

学外の建築系卒業展覧会



第34回学生設計優秀作品展 — 建築・都市・環境 —

主催	学生設計優秀作品展組織委員会・レモン画翠 主催 展覧会
会場	明治大学駿河台校舎 アカデミーコモン2F 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台一丁目1番
会期	2011年5月3日(祝火)～5月6日(金)
時間	10:00～19:00 ※最終日は16:00まで
内容	全国から約90作品出展 愛知産業大学からは袖山華絵さんの作品(p.6-7)を出展
入場料	無 料



第52回全国大学・高専卒業設計展示会

主催	日本建築学会・各支部
会場	Aコース19会場、 Bコース19会場の2コースにて全国各地を巡回
会期	Aコース 2011年5月中旬～3月上旬迄 Bコース 2011年5月中旬～2月下旬迄 (各会場共 3日間程度開催の後、巡回)
時間	各会場毎に異なります
内容	全国大学・高専より約180作品展示予定 本校からは千葉幸代さんの作品(p.4～5)を出展
入場料	無 料



通信教育による卒業研究の大まかな流れ

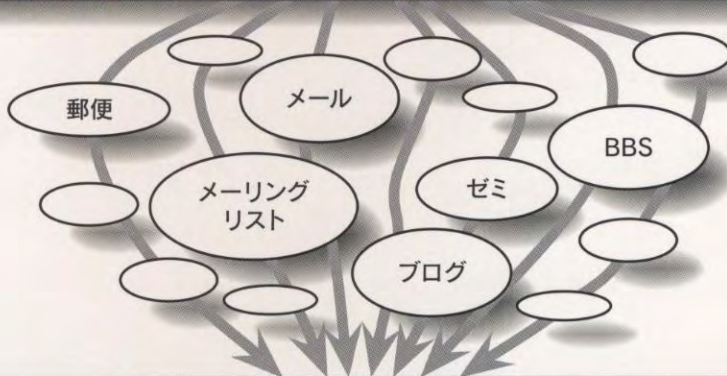
(平成22年度の場合)



卒業研究オリエンテーション

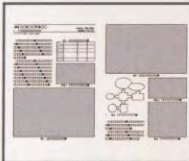
スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて1日受講
- ・全体説明および担当教員発表
- ・担当教員別に研究方針説明



様々なコミュニケーションによって探求を深める

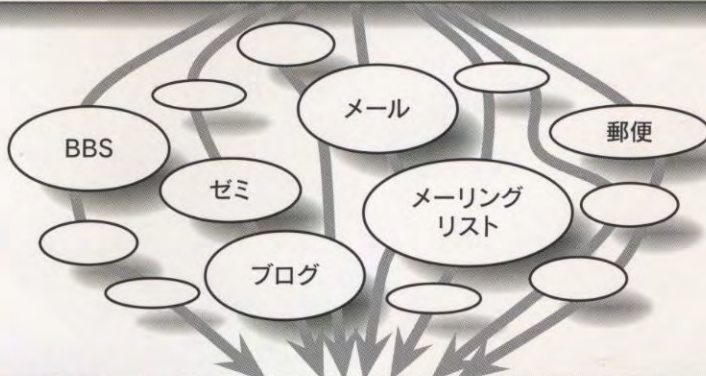
- ・研究テーマ設定
- ・調査・資料収集・分析
- ・問題提起
- ・建築的解決提案
- ・造形研究(スタディ模型など)
- ・その他必要な研究活動



中間報告

通信

- ・レポート形式



様々なコミュニケーションによって作品を深める

- ・建築計画
- ・図面・論文制作
- ・エスキス模型制作
- ・パネル制作



最終面接審査

スクーリング

- ・名古屋会場もしくは東京会場にて2日間受講
- ・完成したパネルとスタディ模型を用いたプレゼンテーション



様々なコミュニケーションによって完成度を高める

- ・パネルの改良
- ・プレゼンテーション模型



最終作品審査

通信

- ・郵送による作品提出
- ・作品パネル+プレゼンテーション模型または論文+その他必要な提出物

合否判定および選出作品決定

※詳細な事務手続等は記載していません

AICHI SANGYO UNIVERSITY

Dept. of Architecture, Faculty of Architecture and Design,
Correspondence Course

2010 Selected Architectural Designs of ASU

愛知産業大学 通信教育部 <http://www.asu-tsukyo.jp/>

文部科学省認可通信教育

愛知県岡崎市岡町原山12-5 〒444-0005 TEL.0564-48-8282 FAX.0564-48-8270

建築学科連絡先 asut-ken@asu.ac.jp